

研究構想シート		学校名	大田市立志学中学校
		氏名	清水 真理
A 研究主題		『主体的に学びに向かう生徒の育成 ～自己有用感を育み、自分の思いを表現できる生徒の育成をめざして～』	
B 研究の目的		自己有用感を育み、自分の思いを表現できるようになることで、主体的に学びに向かう生徒を育てる。	
C 子どもの実態  <ul style="list-style-type: none"> <li>・落ち着いて授業に取り組み、与えられた課題に対して真面目に向き合うことができる生徒が多い。その一方、自ら進んで学びに向かおうとする力には課題がある。</li> <li>・学校が好き、自分のことが好き、自分には良い所があるの項目で、否定的な回答が非常に多い。</li> </ul> 【教師の実態】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一授業公開など研究部の取組に、協力的な雰囲気がある。</li> <li>・一教科一人ということもあり、互いの授業に積極的にアドバイスをしにくい様子がある。</li> </ul>	E 手立て・内容（研究仮説）  <ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の声かけに加え、行事の後にお互いの頑張りや助けられたことを書き合っ て、口頭や掲示物で伝え合う。繰り返し積み重ね、他者から「良かった。」「助 かった。」と認めてもらう経験を増やすことで、自己有用感の高まりが期待できる のではないかな。</li> <li>・「主体的な学びの実現」をめざし、教師一人一人が自身の課題を設定し、他の教 員と協働しながら実践を重ねていく。これにより、教師の授業力が向上し、生徒が 主体的に学ぶ授業を実現できるのではないかな。</li> </ul>	D めざす子どもの姿  <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思いを隠せず表現することができる。</li> <li>・意欲をもって、自ら学習に励むことができる。</li> </ul> 【めざす教師の姿】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・協働しながら、授業改善に積極的に取り組むことができる。</li> <li>・主体的な学びが実現されるような授業を行うことができる。</li> </ul>	
	F 検証方法  <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート調査の活用（県の学力調査、QU、学校評価）</li> </ul>		
	G 研究計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>・行事後の振り返りの際に、お互いの頑張りや良かったことを口頭や掲示物で伝え 合う。（松江自主研修、体育祭、文化祭、三瓶フィールドワーク、SST発表会）</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・①教師の課題設定。</li> <li>②一人一公開授業の実施と中間報告および相談会。</li> <li>③取組の振り返りの共有。</li> </ul>		